



より良い援助者を目指して

何気ない言葉が嬉しかったり、何気ない言葉で傷ついたりするのが、私たちの現場です。かかりつけ医として、永年、顔見知りの患者さん・家族であれば、多少の齟齬(そご)は許容範囲かもしれません。しかし、今まで健康には自信があり、特にかかりつけ医を持たずに年を重ね、やがて気がついたときには、人生の最終段階を迎えてしまう人も決して少なくありません。あるいは、人生半ばでがんに罹り、治療をしてきたにもかかわらず、治療が困難となり、残された時間を自宅で過ごしたいと希望される人もいます。4月にめぐみ在宅クリニックとして、新規に訪問診療を開始した患者さんは47件ありました。その多くは、遠くない将来にお迎えが来るかもしれないと診断された人です。ですから、冒頭に紹介した、何気ない言葉をとても大切にしています。

いつも意識することは、どんな私たちであれば、良い援助者になれるのであろうか？です。そして、こだわるのは、数字ではなく顔の表情です。つまり、どんな関わりがあると、今日、初めて出会った人が、穏やかな表情になれるのか？を意識します。

今気になる事は、とても大切なテーマです。まずは、本人・家族の気がかりをていねいに聴いていきます。すぐに答えなくてはいけないこと(痛みの緩和など)は、速やかに対応を必要とします。しかし、答えることのできない苦しみも、気になる事に多く含みます。歩けなくなっていくこと、食事の量が少なくなっていくこと、これからどうなっていくのか、迷惑をかけたくない思い、などなどです。これらの思いをていねいに聴いていきます。経験が少ないと、相手が訴えていることに、答えようと意識すると、このような問いに、説明をしたくなります。しかし、クリニックでは、あえて、この苦しみを一緒に味わうことを教えています。答えられない苦しみを一緒に味わうプロセスを経なければ、次のステップに行かないことを学んできたからです。説明ではなく、ていねいに聴くこと、たったこれだけでも、大きな力になります。

ただ、問題はこれからです。ていねいに聴いただけでも、ある人は、次のステップに行くのですが、全ての人とは限りません。反復と沈黙は、訓練すれば、初心者でもある程度行うことができますが、その次が進まず、足が遠のいてしまう人がいるとすれば、それはとても残念なことです。苦しみを抱えた人が、一瞬にして穏やかな顔になる可能性があるからです。

具体的な関わり方は、“問いかけ”です。何気ない一言で、一瞬で表情が変わることがあります。ところで、お生まれはどちらですか？という問いは、しばしば使う技法です。そのときに、県名だけで終わってしまっただけではダメです。その先が大切です。A県でお生まれになったのですね、ちなみにA県のどちらですか？と、その次を問いかけてみたいと思います。その次に来る都市名を聞いて、あー、あの町ですね。あの町といえば、これが有名で、西には、この山が見えて…と、生まれ故郷に関する話をつなげてみたいと思います。これだけでも顔の表情が変わることでしょう。できれば、方言の1つでも話できるとさらに良いですね。何気ない言葉が大切になります。そのための雑学を学ぶため、クリニックでは、定期的にお国自慢の勉強を行っています。

小澤竹俊

エンドオブライフ・ケア協会設立とシンポジウムの案内

永年の懸案であった人生の最終段階に対応できる人材養成プロジェクトを具体的に実践する目的で、2015年4月に一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会を、有志である北里大学の小野沢先生、長尾クリニックの長尾先生、医療政策の田口空一郎先生と、めぐみ在宅クリニックの小澤の4人が理事となり、株式会社チェンジの千田さんの多大なるサポートの下、設立することとなりました。今までクリニックで行っていた人材育成講座を、これから全国各地で開催できるように準備を進めて参ります。また2015年6月28日(日)午後1時より、日比谷図書館文化館 日比谷コンベンションホールにて、エンドオブライフ・ケア協会設立記念シンポジウム、“2025年問題を考える”を開催することになりました。エンドオブライフ・ケア協会の理事である長尾先生、小野沢先生に加え、救急医療の現状について、山本五十年先生に御登壇頂きます。私も人材育成の立場で発言をいたします。是非、お誘い合わせの上、お越し下さい。詳細はエンドオブライフ・ケア協会のホームページにて。

第3期JSP養成講座を終えました

2015年5月16日17日の2日間、めぐみ在宅クリニック研修室にて第3期JSP養成講座を開催いたしました。全国から志のある猛者が50名集まり、お互いの夢を語り合いました。1日目の夜には、クリニック近くの中野にて懇親会も開催されました。志のある仲間との飲み会は、これからの時代に向けた思いを強めるのに十分でした。やがて、それぞれの地域で、人生の最終段階の人とその家族の支援にあたって頂けると確信しています。2日間、本当にお疲れ様でした。出合いを心から感謝します！



診療実績

	2006-2014年	2015年1月	2015年2月	2015年3月	2015年4月	2015年計	総計
訪問回数	32,656	623	602	611	720	2,556	35,212
自宅永眠	1,286	24	18	10	21	73	1,359
施設永眠	129	0	5	0	4	9	138
在宅(自宅+施設)	1,415	24	23	10	25	82	1,497
病院永眠	330	4	6	5	6	21	351